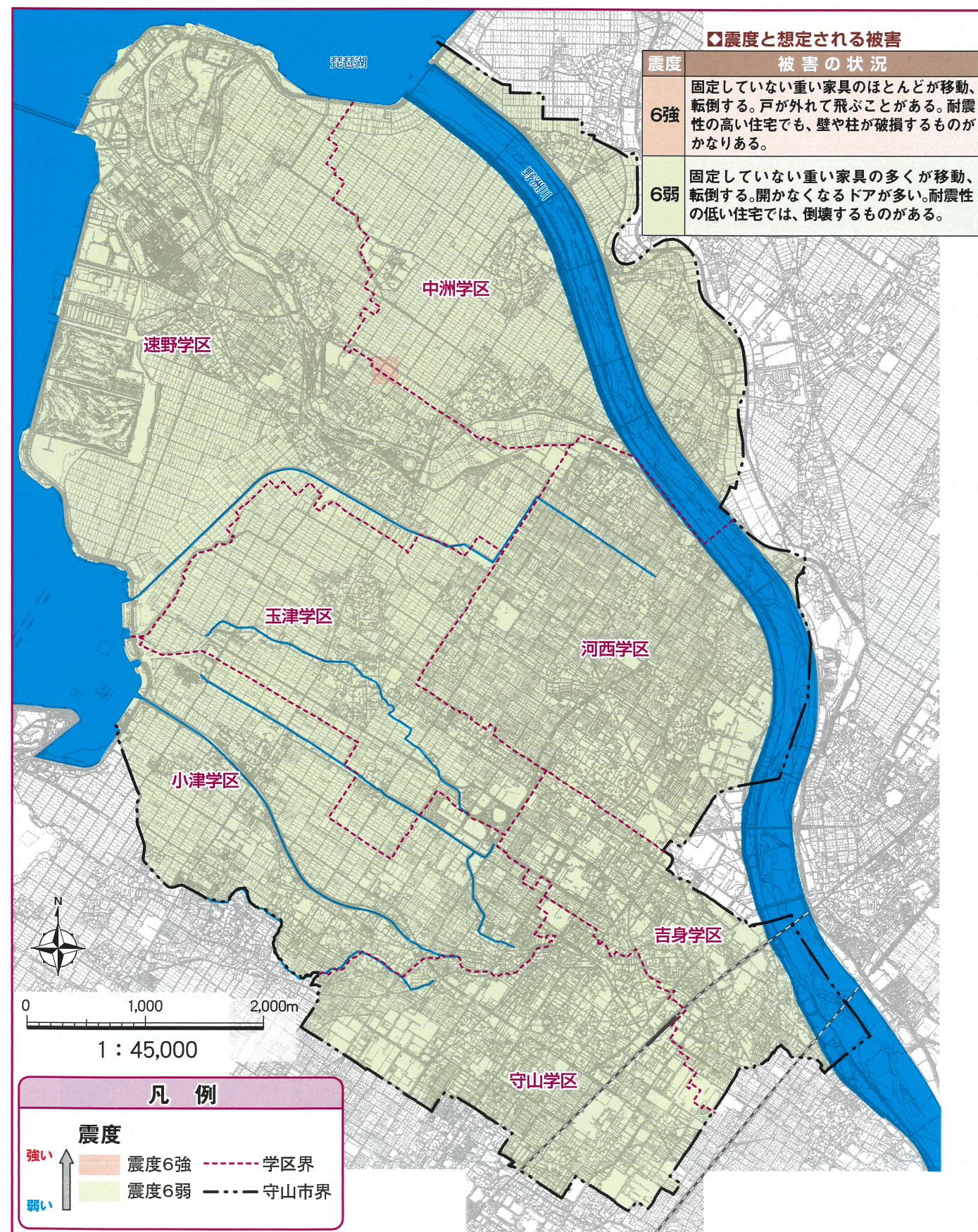


2-6. 南海トラフ地震の想定震度マップ

このマップは、南海トラフ地震（陸側ケース）が発生した場合の想定震度を示しています。
南海トラフ地震の今後30年以内の発生確率は70%～80%と言われております。

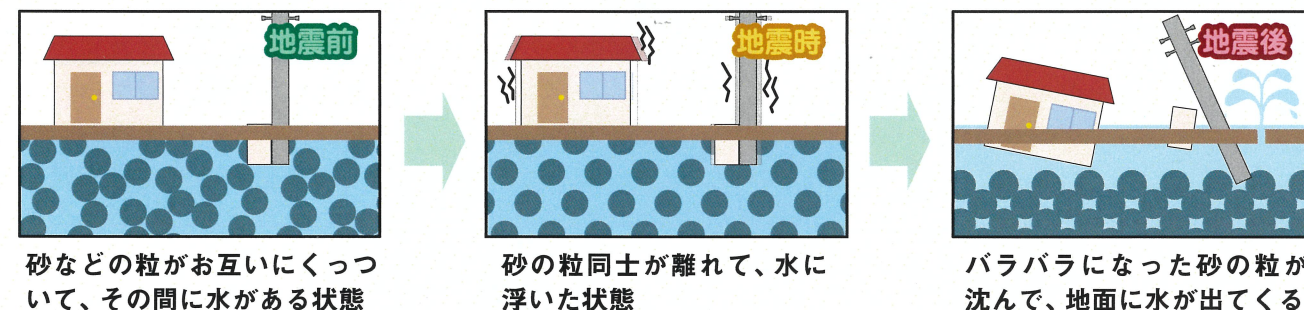
守山マップ（公開型GIS）▶



2-7. 液状化発生の仕組みを知ろう

液状化現象とは、地下水位の高い砂地盤が、地震の揺れによって液体状になる現象です。地盤が液状化することで、地上の建物が倒れる、道路が陥没する、下水道のマンホールなどが浮き上がるなどの被害が発生します。

この現象は、昭和39年の新潟地震でアパートの倒壊や新設の橋の崩壊などの被害が続出したことにより注目され、東日本大震災、阪神・淡路大震災でも液状化が大きく報道されました。特に東日本大震災では、地震動の継続時間が長かったため、過去の短い地震と比較して、液状化のしやすい傾向が見られました。



2-8. 液状化対策を知ろう

液状化の発生は、目に見えない地下の地盤の状況によって左右されます。お住まいの場所の液状化対策を考えるためには、その場所での地質調査を行い、詳細な分析をした上で、対策を行うことが望めます。

防災マップには参考情報として、PL値による液状化のしやすさを示しています。これらの情報を基に、液状化への対策を考えてみましょう。

※PL値とは、Potential of Liquefactionのことで、地質調査がされた地点における液状化のしやすさを表す値です。これは、阪神・淡路大震災の教訓を踏まえて改訂された「道路橋示方書・同解説 V耐震設計編」にある手法から求める値です。

◆戸建て住宅での対策について（例）

戸建て住宅の液状化対策として、主に以下のような工法があります。建設コストや施工スペース、効果にそれぞれ長所・短所があります。また、新しい工法も研究・開発されています。大切な資産を守ることが出来るよう信頼できる専門業者に相談し、最も適した工法を検討しましょう。

